

平成26年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : 日本電気(株)
研究開発課題 : 小型航空機搭載用高分解能合成開口レーダー研究開発
研究開発期間 : 平成24～26年度
代表研究責任者 : 村田 稔

■ 総合評価 : 適 (適/条件付き適/不適の3段階評価)
(評価点 19点/25点中)

(総論)

当初計画を着実に進めており、今後、十分な成果が期待されることから、引き続き研究開発を推進することが適当である。

(コメント)

- 実運用体制を意識しつつ、今後の研究開発および検証を行うことにより、当初目標の達成が期待できる。
- 引き続き研究成果(ハードウェア・ソフトウェア開発およびSARデータ応用分野)の周知活動を行い、潜在的なユーザーの裾野を広げる努力に期待したい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

当初計画を着実に進めており、計画通り目標を達成するものと見込まれる。

(コメント)

- 当初計画通り研究が進行しており、全体システムの実現可能性が明確化されている。
- ハードウェアおよびソフトウェアを含め概ね目標を達成している。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

予算計画に沿って、適切かつ効率的な執行が行われていると評価できる。

(コメント)

- 予算計画に沿っており、妥当である。
- 適切かつ効率的な執行が行われていると評価できる。

(3) 研究開発実施計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

研究の進捗に合わせて研究開発計画の適正化を行っており、十分な成果が期待できる。

(コメント)

- 研究の進捗に合わせて、モジュール構成等の見直しや処理アルゴリズム等の検討をしており、その成果が期待できる。
- 本年度の進捗状況を踏まえ、研究開発計画の適正化がなされている。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

研究開発の進捗状況に合わせて、確実に研究計画を達成できるよう見直しを行っており、効率的な予算計画となっている。

(コメント)

- 研究開発計画に基づき適切である。
- 研究開発の進捗に合わせて予算計画の見直しを行っており、適切である。
- 平成 26 年度の全体予算額が圧縮される中、目標達成に向け効率的な予算計画となっている。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

研究員の増員等を行っており、適切な実施体制が組み立てられていると評価できる。

潜在的ユーザーの要求を反映する場である研究開発運営委員会のさらなる有効活用を期待したい。

(コメント)

- 必要な研究員の増員を行うなど、実施体制を強化していると評価できる。
- 研究の進捗状況を踏まえ、課題毎に適切な体制が組み立てられている。
- 研究開発運営委員会のさらなる有効活用を期待したい。